

政治家の言葉と心理

社会環境学部 社会環境学科 助教 木下 健

分野 政治学、現代日本政治、議会

キーワード 政治コミュニケーション、どっちつかず理論、表情分析

研究概要

なぜ政治家は独特の言葉遣いや表現をするのだろうか。政治の世界では、多数決で決着が付けられるため、政治家は再選できるように支持者を集めるための努力をしている。その活動は、選挙前のみならず、普段の政治活動、国会での質疑答弁やテレビ討論番組出演など多岐にわたる。

例えば、政治家が討論番組で話をする場合、攻めの姿勢と守りの姿勢の2つを示す。攻めの姿勢は自分が間違っていないことを確信しており、強い主張を行う場合である。守りの姿勢は自分の支持者を失わないようにするため、曖昧な回答をする場合である。この2つの姿勢はあくまで典型例であり、この間にはグラデーションが存在している。

2つの姿勢の見分け方は簡単である。攻めの姿勢の判断基準は、語気が強い場合や自身のある表情が見られる場合は攻めの姿勢である。この場合、相手の理解を促すために手振りが増えることや、眉を動かすため驚きの表情（強調）が見受けられる。

他方で、守りの姿勢の判断基準は政治家が回答を悩んでいる場合、「ええ」や「あの」といった表現が見られる場合は悩んでおり、守りの姿勢であることが分かる。表情も下を向くことが多く、悲しい表情や奮えた表情が見受けられる。

この他、当該政治家の政策位置や専門分野、議題の争点なども関係している。与党議員は現状の政策に対する説明が求められるため守りの姿勢が多い一方で、野党議員は政府の政策を批判するために攻めの姿勢が多くなる。

表：与野党議員による攻めの姿勢と守りの姿勢

		攻めの姿勢	守りの姿勢
与党議員	場面	業績のアピール、政策の説明など	取り組み状況の説明・釈明など
	振る舞い・表情	強い語気、自信、驚きの表情（強調）	下を向く、悲しい表情、奮えた表情
野党議員	場面	政府・与党への批判、独自の政策案など	過去の発言との矛盾、失言など
	振る舞い・表情	怒りの表情、驚きの表情	下を向く、悲しい表情、奮えた表情

(注) 場面、振る舞い・表情は一例に過ぎず、多くのバリエーションが存在している。

利点特徴

政治の世界は、感情による影響が大きい。有権者は政策を吟味するよりも、政治家の見た目や信頼できそうというイメージによって投票することが多い。政治家は有権者の感情に訴えかけるため、身振り・手振りに加えて表情など非言語表現を効果的に用いている。

本研究では、政治家の言葉遣いや表情に焦点を当て、いかなるレトリック（修辞法）を用いているか、質問に答えているかといったことを明らかにすることを試みる。有権者が政治家のレトリックを理解し、惑わされないような判断を下すことが求められる。

応用分野

本研究は政治コミュニケーション論の枠組みを用いて政治家を対象としているが、あらゆるコミュニケーションに応用することが可能である。相手の表情や振る舞いから真意を読み取ることができれば交渉を有利に進めることが可能であり、ビジネスや会議といった場面で活用することができる。

また、感情や振る舞いといった心理は、デジタルネイティブ世代にとっても重要となる。現代社会ではインターネット上でのやり取りが増えており、相手の表情を読み取る回数が減りつつある。しかし、重要な場面では対面によるやり取りが必要となり、その場合に良い印象を与えるための効果的な振る舞いが求められる。コミュニケーション研究はより良い人間社会の形成に役立つと考えられる。